

○ 調査対象地の概要

調査対象地名：岡崎市福岡町字永池 5 番、6 番 8、6 番 11

調査対象地の面積：628 m²

調査対象地の状況：

当該地は、都市計画道路衣浦岡崎線の交差道路となる部分であり、道路になる前に土壌調査が行われた。

特定有害物質の使用状況等：

当該地は、ガソリンスタンド跡地でありガソリンには、ベンゼンと鉛が含まれていることが知られている。

○ 用語解説

1 土壌溶出量基準

汚染土壌から特定有害物質が地下水に溶出し、その地下水を飲用することによる健康影響を考慮して設定

2 地下水基準

地下水を飲用することによる健康影響を考慮して設定

3 特定有害物質

(1) 第一種特定有害物質

四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、ジクロロメタン、テトラクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、ベンゼン

(2) 第二種特定有害物質

カドミウム及びその化合物、六価クロム化合物、シアン化合物、水銀及びその化合物、セレン及びその化合物、鉛及びその化合物、砒素及びその化合物、ふっ素及びその化合物、ほう素及びその化合物

(3) 第三種特定有害物質

シマジン、チウラム、チオベンカルブ、ポリ塩化ビフェニル、有機りん化合物

○ ベンゼンの健康影響について

毒性

ベンゼンは、変異原性の試験で染色体異常が報告されており、総合的に判断して遺伝子に対する障害性があると考えられています。また、疫学研究において、ベンゼンが人に白血病を引き起こすことに関して十分な証拠があると考えられています。

人がベンゼンを取り込んだ際の発がん性リスクから、「生涯にわたってその値のベンゼンを取り込んだ場合に、取り込まなかった場合と比べて10万人に1人の割合でがんを発症する人が増える水準」として、大気環境基準、水道水質基準や水質環境基準が設定されています。

発がん性について、国際がん研究機関（IARC）ではベンゼンをグループ1（人に対して発がん性がある）に分類しています。この他、高濃度のベンゼンを長期間体内に取り込むと、造血器に障害を引き起こすことが報告されています。

体内への吸収と排出

人がベンゼンを体内に取り込む可能性があるのは、飲み水や呼吸によると考えられます。体内に吸収されたベンゼンは、呼気とともに吐き出されたり、肝臓で酸化され、尿に含まれて排せつされます。

（出典：環境省水・大気環境局「土壌汚染に関するリスクコミュニケーションガイドライン」）